

# BIOS セットアップ (AMD AM4 シリーズ)

BIOS セットアップ .....	2
起動画面 .....	2
メインメニュー .....	3
M.I.T. ....	4
System (システム).....	9
BIOS (BIOS の機能).....	10
Peripherals (周辺機器).....	13
Chipset (チップセット).....	16
Power (電力管理).....	18
Save & Exit (保存して終了).....	20



このセクションで説明した BIOS セットアップメニューは、マザーボードによって異なる場合があります。表示される実際の BIOS セットアップオプションは、お使いのマザーボードおよび BIOS バージョンによって異なります。

## BIOS セットアップ

BIOS (Basic Input and Output System) は、マザーボード上の CMOS にあるシステムのハードウェアのパラメータを記録します。主な機能には、システム起動、システムパラメータの保存、およびオペレーティングシステムの読み込みなどを行うパワー オンセルフ テスト (POST) の実行などがあります。BIOS には、ユーザーが基本システム構成設定の変更または特定のシステム機能の有効化を可能にする BIOS セットアッププログラムが含まれています。

電源をオフにすると、CMOS の設定値を維持するためマザーボードのバッテリーが CMOS に必要な電力を供給します。

BIOS セットアッププログラムにアクセスするには、電源オン時の POST 中に <Delete> キーを押します。

BIOS をアップグレードするには、GIGABYTE Q-Flash または @BIOS ユーティリティのいずれかを使用します。

- Q-Flash により、ユーザーはオペレーティング システムに入ることなく BIOS のアップグレードまたはバックアップを素早く簡単に行えます。
- @BIOS は、インターネットから BIOS の最新バージョンを検索しダウンロードするとともに BIOS を更新する Windows ベースのユーティリティです。



- BIOS の更新は潜在的に危険を伴うため、BIOS の現在のバージョンを使用しているときに問題が発生していない場合、BIOS を更新しないことをお勧めします。BIOS の更新は注意して行ってください。BIOS の不適切な更新は、システムの誤動作の原因となります。
- システムの不安定またはその他の予期しない結果を防ぐために、初期設定を変更しないことをお勧めします (必要な場合を除く)。誤った BIOS 設定しますと、システムは起動できません。そのようなことが発生した場合は、CMOS 値を既定値にリセットしてみてください。(CMOS 値を消去する方法については、この章の「Load Optimized Defaults」セクションまたは第 1 章にあるバッテリーまたは CMOS ジャンパの消去の概要を参照してください。)

## 起動画面

コンピュータが起動するとき、次の起動ロゴ画面が表示されます。



<F2>キーを使用することにより、二つの異なるBIOSのモードを切り替えることができます。Classic Setup モードは、詳細なBIOS設定をすることができます。キーボードの矢印キーを押すことにより設定項目を切り替えることができ、<Enter>を押すことでサブメニューに入ります。また、マウスを使用して項目に選択することもできます。Easy Mode は、迅速に現在のシステム情報を表示したり、最適なパフォーマンスを引き出すために調整を行うことができます。Easy Mode では、マウスを使用して設定や設定画面項目間の移動を行うことができます。



- システムが安定しないときは、Load Optimized Defaults を選択してシステムをその既定値に設定します。
- 本章で説明された BIOS セットアップメニューは参考用です、項目は、BIOS のバージョンにより異なります。

# メインメニュー



## Classic Setup のファンクションキー

<←><→>	選択バーを移動させてセットアップメニューを選択します。
<↑><↓>	選択バーを移動させてメニュー上の設定項目を選択します。
<Enter>/Double Click	コマンドを実行するかまたはメニューに入ります。
<+>/<Page Up>	数値を上昇させるかまたは変更を行います。
<->/<Page Down>	数値を下降させるかまたは変更を行います。
<F1>	ファンクションキーについての説明を表示します。
<F2>	Easy Mode に切り替えます
<F3>	現在のBIOS設定をプロファイルに保存する。
<F4>	以前に作成したプロファイルからBIOS設定をロードします。
<F5>	現在のメニュー用に前の BIOS 設定を復元します。
<F7>	現在のメニュー用に最適化された BIOS の初期設定を読み込みます。
<F8>	Q-Flash Utility にアクセスします。
<F9>	システム情報を表示します。
<F10>	すべての変更を保存し、BIOS セットアッププログラムを終了します。
<F12>	現在の画面を画像としてキャプチャし、USB ドライブに保存します。
Left <Alt>	各項目の詳細説明を表示します。
Right <Alt>	ハードウェア情報の表示を減らします。
<Esc>	メインメニュー: BIOS セットアッププログラムを終了します。 サブメニュー: 現在のサブメニューを終了します。



オーバークロック設定による安定動作については、システム全体の設定によって異なります。オーバークロック設定を間違えて設定して動作させるとCPU、チップセット、またはメモリが損傷し、これらのコンポーネントの耐久年数が短くなる原因となります。このページは上級ユーザー向けであり、システムの不安定や予期せぬ結果を招く場合があります。既定値設定を変更しないことをお勧めします。(誤ったBIOS設定をしますと、システムは起動できません。そのような場合は、CMOS 値を消去して既定値にリセットしてみてください。)

## ▶ Advanced Frequency Settings (周波数の詳細設定)

### ☞ CPU Clock Control

CPUベースクロックを 1 MHz 刻みで手動で設定します。

**重要:** CPU 仕様に従って CPU 周波数を設定することを強くお勧めします。

### ☞ Host Clock Value

現在のホストクロックの周波数を表示します。

### ☞ GFX Clock Frequency <sup>(注)</sup>

GPUの周波数を変更できます。GFX Clock Frequency 設定を変更した後、必ず **GFX Core Voltage** 設定を調整してください。

注: 調整可能範囲は、取り付ける CPU によって異なります。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。

### ☞ GFX Core Voltage <sup>(注)</sup>

GPUの電圧を変更することができます。

注: 調整可能範囲は、取り付ける CPU によって異なります。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。

### ☞ CPU Clock Ratio

取り付けた CPU のクロック比を変更します。調整可能範囲は、取り付ける CPU によって異なります。

### ☞ CPU Frequency

現在作動している CPU 周波数を表示します。

(注) この機能をサポートする CPU を取り付けられている場合のみ、この項目が表示されます。

## ▶ Advanced CPU Settings

### ☞ CPU Clock Ratio, CPU Frequency

上の項目の設定は **Advanced Frequency Settings** メニューの同じ項目と同期しています。

### ☞ Core Performance Boost<sup>(注1)</sup>

コアパフォーマンスブースト (CPB)技術の有効/無効の設定をします。

### ☞ AMD Cool&Quiet function

▶ Enabled AMD Cool'n'QuietドライバーはCPUとVIDをダイナミックに調整し、コンピュータからの発熱とその消費電力を減少します。

▶ Disabled この機能を無効にします。

### ☞ SVM Mode

仮想化技術によって強化されたプラットフォームは独立したパーティションで複数のオペレーティングシステムとアプリケーションを実行できます。仮想化技術では、1つのコンピュータシステムが複数の仮想化システムとして機能できます。

### ☞ PPC Adjustment

CPU の PState を固定できます。

### ☞ Global C-state Control<sup>(注1)</sup>

CPUのCステート状態の設定ができます。有効に設定した場合、CPUコアの周波数をシステム低負荷時に減少させ、消費電力を低減させます。

### ☞ Power Supply Idle Control

Package C6 Stateを有効または無効にします。

▶ Typical Current Idle この機能を無効にします。

▶ Low Current Idle この機能を有効にします。

▶ Auto BIOSでこの設定を自動的に構成します。

### ☞ CCD Control<sup>(注1)</sup>

使用するCCDの数を設定します。

### ☞ Downcore Control

有効にするCPUコアの数を選択できます (CPUコアの数はCPUによって異なる場合があります)。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。

### ☞ SMT Mode

CPU Simultaneous Multi-Threading 機能を有効または無効に設定できます。この機能は、マルチプロセッサ モードをサポートするオペレーティングシステムでのみ動作します。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。

### ☞ Extreme Memory Profile (X.M.P.)<sup>(注2)</sup>

有効にすると、BIOSがXMPメモリモジュールのSPDデータを読み取り、メモリのパフォーマンスを強化することが可能です。

▶ Disabled この機能を無効にします。

▶ Profile1 プロファイル 1 設定を使用します。

▶ Profile2<sup>(注2)</sup> プロファイル 2 設定を使用します。

### ☞ System Memory Multiplier

システム メモリマルチプライヤの設定が可能になります。Auto は、メモリの SPD データに従ってメモリマルチプライヤを設定します。

(注 1) この機能をサポートするCPUを取り付けている場合のみ、この項目が表示されます。

(注 2) この機能をサポートするCPUとメモリモジュールを取り付けているときのみ、この項目が表示されます。

☞ **Memory Frequency (MHz)**

初期設定のメモリ周波数の値と **System Memory Multiplier** 設定によって自動的に調整されるメモリ周波数が表示されます。

▶ **Advanced Memory Settings (メモリの詳細設定)**

☞ **Extreme Memory Profile (X.M.P.)<sup>(注)</sup>、System Memory Multiplier、Memory Frequency(MHz)**

上の項目の設定は **Advanced Frequency Settings** メニューの同じ項目と同期しています。

☞ **XMP High Frequency Support<sup>(注)</sup>**

高周波メモリの互換性レベルを選択できます。この項目は、**Extreme Memory Profile (X.M.P.)** が **Profile1** または **Profile2** に設定されている場合のみ設定可能です。

☞ **Memory Timing Mode**

**Manual** と **Expert** では、おおよび以下のメモリのタイミング設定を構成できます。  
オプション: Auto、Manual (手動)。

☞ **Profile DDR Voltage**

Non-XMPメモリーモジュール、または**Extreme Memory Profile (X.M.P.)**を使用する場合は**Disabled**に設定され、その値は、メモリの仕様に応じて表示されます。**Extreme Memory Profile (X.M.P.)** が **Profile 1** または **Profile 2** に設定されているとき、この項目はXMPメモリのSPDデータに基づく値を表示します。

▶ **Standard Timing Control/Advanced Timing Control/CAD Bus Setup Timing/CAD Bus Drive Strength/Data Bus Configuration**

これらのセクションでは、メモリのタイミング設定を変更できます。タイミング設定の各画面は、**Memory Timing Mode** が **Manual** または **Advanced Manual** の場合のみ設定可能です。注:メモリのタイミングを変更後、システムが不安定になったり起動できなくなることがあります。その場合、最適化された初期設定を読み込むかまたは CMOS 値を消去することでリセットしてみてください。

▶ **Advanced Voltage Settings (詳細な電圧設定)**

このサブメニューにより、CPU、チップセット、およびメモリ電圧の設定が可能になります。

(注) この機能をサポートするCPUとメモリーモジュールを取り付けているときのみ、この項目が表示されます。

## ▶ PC Health

### ☞ Reset Case Open Status

- ▶ Disabled 過去のケース開閉状態の記録を保持または消去します。
- ▶ Enabled 過去のケース開閉状態の記録をクリアします。次回起動時、**Case Open** フィールドに「No」と表示されます。

### ☞ Case Open

マザーボードのCIヘッダに接続されたケース開閉の検出状態を表示します。システムケースのカバーが外れている場合、このフィールドが「Yes」になります。そうでない場合は「No」になります。ケースの開閉状態の記録を消去したい場合は、**Reset Case Open Status** を **Enabled** にして、設定を CMOS に保存してからシステムを再起動します。

### ☞ CPU Vcore/CPU VDDP/DRAM Channel A/B Voltage/+3.3V/+5V/+12V/VCORE SOC

現在のシステム電圧を表示します。

## ▶ Miscellaneous Settings (その他の設定)

### ☞ PCIEX16 Slot Configuration

PCIEX16 スロットの動作モードを Gen1、Gen2、Gen3、Gen4<sup>(注)</sup> のいずれかに設定します。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。

### ☞ PCIe Slot Configuration

PCI Expressスロットの動作モードをGen 1、Gen 2、またはGen 3に設定できます。実際の動作モードは、各スロットのハードウェア仕様によって異なります。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。

### ☞ PCIe ASPM Mode

CPU/チップセットのPCI Expressバスに接続されたデバイスのためのASPMモードを設定することができます。

### ☞ 3DMark01 Enhancement

一部の従来のベンチマーク性能を向上させることができます。

(注) この機能をサポートするCPUとメモリモジュールを取り付けているときのみ、この項目が表示されます。

## ▶ Smart Fan 5

### ☞ Monitor

ターゲットを切り替えることによってモニタ表示することができます。

### ☞ Fan Speed Control

ファン速度コントロール機能を有効にして、ファン速度を調整します。

- ▶▶ Normal 温度に従って異なる速度でファンを動作させることができます。システム要件に基づいて、System Information Viewerでファン速度を調整することができます。
- ▶▶ Silent ファンを低速度で作動します。
- ▶▶ Manual グラフ上でファンの速度制御を設定ができます。
- ▶▶ Full Speed ファンを全速で作動します。

### ☞ Fan Control Use Temperature Input

ファン速度コントロール用の基準温度を選択できます。

### ☞ Temperature Interval

ファン速度変動用の温度間隔を選択できます。

### ☞ Fan Control Mode

- ▶▶ Auto BIOSは、取り付けられたファンのタイプを自動的に検出し、最適の制御モードを設定します。
- ▶▶ Voltage 電圧モードは、3ピンのファンです。
- ▶▶ PWM PWMモードは、4ピンのファンです。

### ☞ Fan Stop

Fan Stop 機能を有効または無効設定することができます。温度曲線を使用して温度制限を設定できます。ファンは、温度が限界値より低いと動作を停止します。

### ☞ Temperature

選択された領域の、現在の温度を表示します。

### ☞ Fan Speed

現在のファン速度を表示します。

### ☞ Flow Rate

水冷システムの流量を表示します。

### ☞ Temperature Warning

温度警告のしきい値を設定します。温度がしきい値を超えた場合、BIOSが警告音を発します。オプション: Disabled、60°C/140°F、70°C/158°F、80°C/176°F、90°C/194°F。

### ☞ Fan Fail Warning

ファンが接続されているか失敗したかで、システムは警告を出します。警告があった場合、ファンの状態またはファンの接続を確認してください。

## ▶ Q-Flash

Q-Flash ユーティリティにアクセスしてBIOSを更新したり、現在のBIOS設定をバックアップしたりできます。

## System (システム)



このセクションでは、マザーボード モデルおよび BIOS バージョンの情報を表示します。また、BIOS が使用する既定の言語を選択して手動でシステム時計を設定することもできます。

### System Language

BIOS が使用する既定の言語を選択します。

### System Date

システムの日付を設定します。無英譯<Enter> で Month (月)、Date (日)、および Year (年) フィールドを切り替え、<Page Up> キーと <Page Down> キーで設定します。

### System Time

システムの時計を設定します。時計の形式は時、分、および秒です。例えば、1 p.m. は 13:00:00 です。<Enter> で Hour (時間)、Minute (分)、および Second (秒) フィールドを切り替え、<Page Up> キーと <Page Down> キーで設定します。

### Access Level

使用するパスワード保護のタイプによって現在のアクセスレベルを表示します。(パスワードが設定されていない場合、既定では **Administrator** (管理者) として表示されます。)管理者レベルでは、すべての BIOS 設定を変更することが可能です。ユーザーレベルでは、すべてではなく特定の BIOS 設定のみが変更できます。

## BIOS (BIOS の機能)



### ☞ Boot Option Priorities

使用可能なデバイスから全体の起動順序を指定します。起動デバイス リストでは、GPT 形式をサポートするリムーバブルストレージデバイスの前に「UEFI:」が付きます。GPT パーティションをサポートするオペレーティングシステムから起動するには、前に「UEFI:」が付いたデバイスを選択します。

また、Windows 10 (64 ビット) など GPT パーティションをサポートするオペレーティングシステムをインストールする場合は、Windows 10 (64 ビット) インストールディスクを挿入し前に「UEFI:」が付いた光学ドライブを選択します。

### ☞ Hard Drive/CD/DVD ROM Drive/Floppy Drive/Network Device BBS Priorities

ハードドライブ、光学ドライブ、フロッピーディスクドライブ、LAN 機能からの起動をサポートするデバイスなど特定のデバイスタイプの起動順序を指定します。このアイテムで <Enter> を押すと、接続された同タイプのデバイスを表すサブメニューに入ります。上記タイプのデバイスが1つでもインストールされていれば、この項目は表示されます。

### ☞ Bootup NumLock State

POST 後にキーボードの数字キーボードにある NumLock 機能の有効 / 無効を切り替えます。

### ☞ Security Option

パスワードは、システムが起動時、または BIOS セットアップに入る際に指定します。このアイテムを設定した後、BIOS メインメニューの Administrator Password/User Password アイテムの下でパスワードを設定します。

- ▶▶ Setup      パスワードは BIOS セットアッププログラムに入る際にのみ要求されます。
- ▶▶ System     パスワードは、システムを起動したり BIOS セットアッププログラムに入る際に要求されます。

### ☞ Full Screen LOGO Show

システム起動時に、GIGABYTE ロゴの表示設定をします。Disabled にすると、システム起動時に GIGABYTE ロゴをスキップします。

## ☞ **Fast Boot**

Fast Boot を有効または無効にして OS の起動処理を短縮します。**Ultra Fast** では起動速度が最速になります。

## ☞ **SATA Support**

▶ All Sata Devices オペレーティングシステムおよび POST 中は、全 SATA デバイスは機能します。

▶ Last Boot HDD Only 以前の起動ドライブを除いて、すべての SATA デバイスは、OS 起動プロセスが完了するまで無効になります。

この項目は、**Fast Boot** が **Enabled** または **Ultra Fast** に設定された場合のみ設定可能です。

## ☞ **NVMe Support**

NVMe デバイスを有効または無効にすることができます。

この項目は、**Fast Boot** が **Enabled** または **Ultra Fast** に設定された場合のみ設定可能です。

## ☞ **VGA Support**

起動するオペレーティングシステム種別が選択できます。

▶ Auto 従来のオプション ROM のみを有効にします。

▶ EFI Driver EFI オプション ROM を有効にします。

この項目は、**Fast Boot** が **Enabled** または **Ultra Fast** に設定された場合のみ設定可能です。

## ☞ **USB Support**

▶ Disabled OS ブートプロセスが完了するまで、全 USB デバイスは無効になります。

▶ Full Initial オペレーティングシステムおよび POST 中は、全 USB デバイスは機能します。

▶ Partial Initial OS ブートプロセスが完了するまで、一部の USB デバイスは無効になります。

**Fast Boot** が **Enabled** に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。**Fast Boot** が **Ultra Fast** に設定されている場合、この機能は無効になります。

## ☞ **PS2 Devices Support**

▶ Disabled OS ブートプロセスが完了するまで、全 PS/2 デバイスは無効になります。

▶ Enabled オペレーティングシステムおよび POST 中は、全 PS/2 デバイスは機能します。

**Fast Boot** が **Enabled** に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。**Fast Boot** が **Ultra Fast** に設定されている場合、この機能は無効になります。

## ☞ **NetWork Stack Driver Support**

▶ Disabled ネットワークからのブートを無効にします。

▶ Enabled ネットワークからのブートを有効にします。

この項目は、**Fast Boot** が **Enabled** または **Ultra Fast** に設定された場合のみ設定可能です。

## ☞ **CSM Support**

従来の PC 起動プロセスをサポートするには、UEFI CSM (Compatibility Software Module) を有効または無効にします。

▶ Enabled UEFI CSM を有効にします。

▶ Disabled UEFI CSM を無効にし、UEFI BIOS 起動プロセスのみをサポートします。

#### ☞ LAN PXE Boot Option ROM

LANコントローラーの従来のオプションROMを有効にすることができます。

**CSM Support** が **Enabled** に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。

#### ☞ Storage Boot Option Control

ストレージデバイスコントローラーについて、UEFIまたはレガシーのオプションROMを有効にするかを選択できます。

▶ Disabled オプションROMを無効にします。

▶ UEFI Only UEFIのオプションROMのみを有効にします。

▶ Legacy Only レガシーのオプションROMのみを有効にします。

**CSM Support** が **Enabled** に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。

#### ☞ Other PCI Device ROM Priority

LAN、ストレージデバイス、およびグラフィックスROMなどを起動させる設定ができます。UEFIまたはレガシーのオプションROMを有効にするかを選択できます。

▶ Disabled オプションROMを無効にします。

▶ UEFI Only UEFIのオプションROMのみを有効にします。

▶ Legacy Only レガシーのオプションROMのみを有効にします。

**CSM Support** が **Enabled** に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。

#### ☞ Administrator Password

管理者パスワードの設定が可能になります。この項目で <Enter> を押し、パスワードをタイプし、続いて <Enter> を押します。パスワードを確認するよう求められます。再度パスワードをタイプして、<Enter> を押します。システム起動時およびBIOS セットアップに入るときは、管理者パスワード (またはユーザー パスワード) を入力する必要があります。ユーザー パスワードと異なり、管理者パスワードではすべての BIOS 設定を変更することが可能です。

#### ☞ User Password

ユーザー パスワードの設定が可能になります。この項目で <Enter> を押し、パスワードをタイプし、続いて <Enter> を押します。パスワードを確認するよう求められます。再度パスワードをタイプして、<Enter> を押します。システム起動時およびBIOS セットアップに入るときは、管理者パスワード (またはユーザー パスワード) を入力する必要があります。しかし、ユーザー パスワードでは、変更できるのはすべてではなく特定の BIOS 設定のみです。

パスワードをキャンセルするには、パスワード項目で <Enter> を押します。パスワードを求められたら、まず正しいパスワードを入力します。新しいパスワードの入力を求められたら、パスワードに何も入力しないで <Enter> を押します。確認を求められたら、再度 <Enter> を押します。

注:ユーザーパスワードを設定する前に、最初に管理者パスワードを設定してください。

#### ☞ Secure Boot

セキュアブートを有効または無効設定することができます。**CSM Support** が **Disabled** に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。

## Peripherals (周辺機器)



### AMD CPU fTPM

AMD CPUに統合されたTPM 2.0機能を有効/無効に設定できます。

### Initial Display Output

取り付けた PCI Express グラフィックスカード、またはオンボードグラフィックスから、最初に呼び出すモニタディスプレイを指定します。

- ▶▶ IGD Video (注) 最初のディスプレイとしてオンボードグラフィックスを設定します。
- ▶▶ PCIe 1 Slot 最初のディスプレイとして、PCIEX16 スロットにあるグラフィックカードを設定します。
- ▶▶ PCIe 2 Slot 最初のディスプレイとして、PCIEX16 スロットにあるグラフィックカードを設定します。

### HD Audio Controller

オンボードオーディオ機能の有効/無効を切り替えます。  
オンボードオーディオを使用する代わりに、サードパーティ製アドインオーディオカードをインストールする場合、この項目を **Disabled** に設定します。

### Above 4G Decoding

64 ビット対応のデバイスは、4 GB 以上のアドレス空間でデコードすることができます。(お使いのシステムが 64 ビット PCI デコードをサポートしている場合のみ)。Enabled (有効) 設定にした場合、複数の高度なグラフィックスカードが使用されている場合、オペレーティングシステムを読み込み中に起動することができない場合があります (4 GB制限の仕様のため)。

### Re-Size BAR Support

Resizable BAR のサポートを有効または無効にします。

(注) この機能をサポートする CPU を取り付けられている場合のみ、この項目が表示されます。

## ■ Trusted Computing 2.0

Trusted Platform Module (TPM) を有効または無効にします。

## ■ USB Configuration

### ▶ USB Configuration

#### ☞ Legacy USB Support

USB キーボード/マウスを MS-DOS で使用できるようにします。

#### ☞ XHCI Hand-off

XHCIハンドオフに対応していないOSでも、XHCIハンドオフ機能を有効/無効に設定できません。

#### ☞ USB Mass Storage Driver Support

USBストレージデバイスの有効/無効を切り替えます。

#### ☞ Port 60/64 Emulation

入出力ポート 64h および 60h についてエミュレーションの有効/無効を切り替えます。MS-DOS または USB デバイスをネイティブでサポートしていないオペレーティングシステムで USB キーボードまたはマウスをフルレガシ サポートするにはこれを有効にします。

#### ☞ Mass Storage Devices

接続された USB 大容量デバイスのリストを表示します。この項目は、USBストレージデバイスがインストールされた場合のみ表示されます。

## ■ APP Center Download & Install Configuration

### ☞ APP Center Download & Install

OSに入ってから自動的にGIGABYTE APP Centerをダウンロードして、インストールするかどうかを判断することができます。APP Center をインストールする前に、システムがインターネットに接続されていることを確認してください。

## ▶ Network Stack Configuration

### ☞ Network Stack

Windows Deployment ServicesサーバーのOSのインストールなど、GPT形式のOSをインストールするためのネットワーク起動の有効/無効を切り替えます。

#### ☞ Ipv4 PXE Support

IPv4 PXEサポートの有効/無効を切り替えます。**Network Stack** が有効になっている場合のみ、この項目を構成できます。

#### ☞ Ipv4 HTTP Support

IPv4のHTTPブートサポートを有効または無効に設定します。**Network Stack** が有効になっている場合のみ、この項目を構成できます。

#### ☞ Ipv6 PXE Support

IPv6 PXEサポートの有効/無効を切り替えます。**Network Stack** が有効になっている場合のみ、この項目を構成できます。

#### ☞ Ipv6 HTTP Support

IPv6のHTTPブートサポートを有効または無効に設定します。**Network Stack** が有効になっている場合のみ、この項目を構成できます。

↳ **PXE boot wait time**

PXEブートをキャンセルするための、<Esc>キー入力待ち時間を設定できます。

↳ **Media detect count**

外部メディアの存在を確認する回数を設定できます。

▶ **NVMe Configuration**

取り付けられている場合、M.2 NVME PCIe SSD に関する情報を表示します。

■ **AMD CBS**

このサブメニューには、AMD CBS関連の設定オプションがあります。

■ **Realtek PCIe 2.5GBE Family Controller**

このサブメニューは、LAN 構成と関連する構成オプションの情報を提供します。

## Chipset (チップセット)



### ☞ IOMMU

AMD IOMMUサポートの有効/無効を切り替えます。

### ☞ PCIEX16 Bifurcation (注)

PCIEX16 スロットの帯域幅をどのように分割するかを決定できます。オプション: Auto、PCIEX4x4。

### ☞ Integrated Graphics (注)

オンボードグラフィックス機能の有効/無効を切り替えます。

- ▶▶ Auto                   グラフィックスカードがインストールされているかによって、BIOSはオンボードグラフィックスを自動で有効または無効にします。
- ▶▶ Forces                 オンボードグラフィックスを有効にします。
- ▶▶ Disabled              オンボードグラフィックスコントローラを無効にします。

### ☞ UMA Mode (注)

UMAモードを指定する。

- ▶▶ Auto                    BIOSでこの設定を自動的に構成します。
- ▶▶ UMA Specified        UMAフレーム・バッファの大きさを設定します。
- ▶▶ UMA Auto             ディスプレイ解像度を設定します。

**Integrated Graphics** が **Forces** に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。

### ☞ UMA Frame Buffer Size (注)

フレームバッファサイズは、オンボードグラフィックスコントローラに対してのみ割り当てられたシステムメモリの合計量です。例えば、MS-DOSはディスプレイに対してこのメモリのみを使用します。オプション: Auto、64M~16G。

**UMA Mode** が **UMA Specified** に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。

4G以上のサイズに設定する場合は、まず **CSM Support** を **Disabled** に設定したことを確認してください。

(注) この機能をサポートするCPUを取り付けている場合のみ、この項目が表示されます。

☞ **Display Resolution** (注)

ディスプレイ解像度を設定できます。オプション: Auto、1920x1080 and below、2560x1600、3840x2160。UMA Mode が **UMA Auto** に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。

☞ **SATA Mode**

チップセットに統合されたSATAコントローラー用のRAIDの有効/無効を切り替えるか、SATAコントローラーをAHCIモードに構成します。

- ▶ RAID SATAコントローラーに対してRAIDモードを有効にします。
- ▶ AHCI SATAコントローラーをAHCIモードに構成します。Advanced Host Controller Interface (AHCI) は、ストレージドライバがNCQ (ネイティブ・コマンド・キューイング) およびホットプラグなどの高度なシリアルATA機能を有効にできるインターフェイス仕様です。

☞ **NVMe RAID mode (M2F\_32G コネクター)**

M.2 NVMe PCIe SSDを使用してRAIDを構成するかどうかを設定できます。

☞ **Chipset SATA Port Enable (SATA3 0、1、2、3 コネクター)**

統合されたSATAコントローラーの有効/無効を切り替えます。

☞ **Chipset SATA Port 0/1/2/3 (SATA3 0、1、2、3 コネクター)**

接続されているSATAデバイスの情報を表示します。

---

(注) この機能をサポートするCPUを取り付けている場合のみ、この項目が表示されます。

## Power (電力管理)



### ☞ AC BACK

AC 電源損失から電源復帰した後のシステム状態を決定します。

- ▶▶ Memory AC 電源が戻ると、システムは既知の最後の稼働状態に戻ります。
- ▶▶ Always On AC 電源が戻るとシステムの電源はオンになります。
- ▶▶ Always Off AC 電源が戻ってもシステムの電源はオフのままです。

### ☞ Power On By Keyboard

PS/2 キーボードの呼び起こしイベントによりシステムの電源をオンにすることが可能です。

注: この機能を使用するには、+5VSBリードで1A以上を提供するATX電源装置が必要です。

- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。
- ▶▶ Password 1~5 文字でシステムをオンにするためのパスワードを設定します。
- ▶▶ Keyboard 98 Windows 98 キーボードの POWER ボタンを押してシステムの電源をオンにします。
- ▶▶ Any key キーボードのいずれかのキーを押してシステムの電源をオンにします。

### ☞ Power On Password

**Power On By Keyboard** が **Password** に設定されているとき、パスワードを設定します。

このアイテムで <Enter> を押して 5 文字以内でパスワードを設定し、<Enter> を押して受け入れます。システムをオンにするには、パスワードを入力し <Enter> を押します。

注: パスワードをキャンセルするには、このアイテムで <Enter> を押します。パスワードを求められたとき、パスワードを入力せずに <Enter> を再び押すとパスワード設定が消去されます。

### ☞ **Power On By Mouse**

PS/2 マウスからの入力により、システムをオンにします。

注:この機能を使用するには、+5VSBリードで1A以上を提供するATX電源装置が必要です。

- ▶ Disabled      この機能を無効にします。
- ▶ Move          マウスを移動してシステムの電源をオンにします。
- ▶ Double Click   マウスの左ボタンをダブルクリックすると、システムのパワーがオンになります。

### ☞ **ErP**

S5 (シャットダウン) 状態でシステムの消費電力を最小に設定します。注:このアイテムを **Enabled** に設定すると、次の機能が使用できなくなります。アラームタイマーによる復帰、マウスによる電源オン、キーボードによる電源オン。

### ☞ **Soft-Off by PWR-BTTN**

電源ボタンで MS-DOS モードのコンピュータの電源をオフにする設定をします。

- ▶ Instant-Off    電源ボタンを押すと、システムの電源は即時にオフになります。
- ▶ Delay 4 Sec.   パワーボタンを4秒間押し続けると、システムはオフになります。パワーボタンを押して4秒以内に放すと、システムはサスペンドモードに入ります。

### ☞ **Resume by Alarm**

任意の時間に、システムの電源をオンに設定します。

有効になっている場合、以下のように日時を設定してください:

- ▶ Wake up day:ある月の毎日または特定の日の特定の時間にシステムをオンにします。
- ▶ Wake up hour/minute/second:自動的にシステムの電源がオンになる時間を設定します。

注:この機能を使う際は、オペレーティングシステムからの不適切なシャットダウンまたは AC 電源の取り外しはしないで下さい。そのような行為をした場合、設定が有効にならないことがあります。

### ☞ **Wake on LAN**

Wake on LAN機能の有効/無効を切り替えます。

### ☞ **High Precision Event Timer**

High Precision Event Timer (HPET) の有効/無効を切り替えます。

### ☞ **CEC 2019 Ready**

CEC (California Energy Commission) 2019規格に準拠するために、システムがシャットダウン、アイドルまたはスタンバイ状態にあるときの電力消費を調整できるようにするかどうかを選択できます。

## Save & Exit (保存して終了)



### Save & Exit Setup

この項目で <Enter> を押し、**Yes** を選択します。これにより、CMOS の変更が保存され、BIOS セットアッププログラムを終了します。**No** を選択するかまたは <Esc> を押し、BIOS セットアップのメインメニューに戻ります。

### Exit Without Saving

この項目で <Enter> を押し、**Yes** を選択します。これにより、CMOS に対して行われた BIOS セットアップへの変更を保存せずに、BIOS セットアップを終了します。**No** を選択するかまたは <Esc> を押し、BIOS セットアップのメインメニューに戻ります。

### Load Optimized Defaults

この項目で <Enter> を押し、**Yes** を選択して BIOS の最適な初期設定を読み込みます。BIOS の初期設定は、システムが最適な状態で稼働する手助けをします。BIOS のアップデート後または CMOS 値の消去後には必ず最適な初期設定を読み込みます。

### Boot Override

直ちに起動するデバイスを選択できます。選択したデバイスで <Enter> を押し、**Yes** を選択して確定します。システムは自動で再起動してそのデバイスから起動します。

### Save Profiles

この機能により、現在の BIOS 設定をプロファイルに保存できるようになります。最大 8 つのプロファイルを作成し、セットアッププロファイル 1 ~ セットアッププロファイル 8 として保存することができます。<Enter> を押し、または **Select File in HDD/FDD/USB** を選択してプロファイルをストレージデバイスに保存します。

### Load Profiles

システムが不安定になり、BIOS の既定値設定をロードした場合、この機能を使用して前に作成されたプロファイルから BIOS 設定をロードすると、BIOS 設定をわざわざ設定しなおす煩わしさを避けることができます。まず読み込むプロファイルを選択し、<Enter> を押し、完了します。**Select File in HDD/FDD/USB** を選択すると、お使いのストレージデバイスから以前作成したプロファイルを入力したり、正常動作していた最後の BIOS 設定 (最後の既知の良好レコード) に戻すなど、BIOS が自動的に作成したプロファイルを読み込むことができます。